

# 連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1316 2025/01/09 (THU)

発行 広島高校連絡会事務局

Email [renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp](mailto:renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp)

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照巳)

## 平和とは、花ではなく 花を育てる土

朝日新聞「折々の言葉」(「鷲田清一」2025/01/01)

## 平和とは、歌ではなく 生きた唇 (谷川 俊太郎)



### 首相と面会の被団協の願いと訴え

ノーベル平和賞を受賞した被団協は、首相と面会しました。石破首相は、「長年にわたり被爆の実相を世界に向けて発信してきた皆様が、大変な榮譽を受けられたことは極めて意義深い。長年の努力に対し心から敬意を表し、感謝を申し上げる」と祝意を述べました。被団協の箕牧智之さんは、今年3月に開かれる「核兵器禁止条約締結国会議」への日本のオブザーバー参加を求めました。また、田中重光さんは自身の被爆体験をもとに、核兵器廃絶への想いを訴えました。

### 石破首相・林官房長官の踊る言葉と空っぽの中身

これに対して石破茂首相は、「厳しい安全保障環境の中、日本の現状はやむをえないが、将来核なき世界を目指すという思いは同じだ」と述べました。林官房長官は記者会見で、「アメリカとの間で拡大抑止の信頼性を確保しつつ、安全保障上の脅威に適切に対処していくという大前提に立ちながら、唯一の戦争被爆国として歴史的責務をどう果たしていくべきか、という難しい課題だと認識している。政府として、ほかのオブザーバー参加国の状況も踏まえながら、核兵器のない世界に向けた現実的で実践的な取り組みとして、いかなる対応が適当か予断なく検証している」とのべました。

### 空っぽの言葉を見抜いた被爆者の取材記者団への発言

田中熙巳さんは、面会後の記者団に対し「要望をきちんと伝えるような時間は設けられず、石破首相の独壇場のようになってしまったかなと思う。被団協としての収穫ある面会ではなかったので残念」とし、同じく記者団の取材に対して箕牧さんは「締結国会議へのオブザーバー参加をお願いしたが、それに対する反応はなかった。検討するとすら言わなかった」。「同じ『アメリカの核の傘』に居るノルウェーやドイツも参加しているので、日本も是非参加をしてほしい」と訴えました。(村井 義幸)



▼二〇二五年、二一世紀に入って  
四分の一期間が過ぎたわけです。  
今週の表題は、あの「鉄腕アトム」の主題歌も書いた詩人谷川俊太郎さんの言葉です▼人類は、言葉によって、目の前の現実を分析したり、夢を語ったり、連帯を呼びかけたりする事が出来るようになりました。一方で、実際の原因や責任を誤魔化すために言葉が使われることも何と多いことでしょう▼今年、ノーベル平和賞を受賞した被団協。被爆体験を語ることは、言葉を見つめ、言葉の重さを考え続けたことでしょう。多くのヒバクシャは、「人として生きることも、死ぬことも許さない核兵器」が再び炸裂することは、あの地獄が再現されることだ。「地球上のいずれの地にも核兵器の被害が起きることのないよう」痛切に願い、思い出したくない被爆の実相を、語ってきました▼自らの命を削りながらの、訴えは世界の世論を動かすに核兵器禁止条約の実現へと歴史が動きまわりました▼同時に、戦争が広がり核兵器使用を脅しとして使う状況が繰り返し伝えられていきます▼「希望」の広がり「悲惨・絶望」が同時に進行する二〇二五年。

「自分が望む状況をつくる為に自らがその一部となつて行動しなさい」とカレンジャーは、弟子たちに伝えたそうです▼極端に進んだ富裕層と貧困層の格差、新自由主義自己責任、規制緩和等の言葉によって、機能不全になりつつあるこの社会を確かに変革するために今年も力を合わせましょう。